

野沢温泉村の現状

野沢温泉村の沿革

野沢温泉村は、鎌倉時代から「湯山村」として栄え、古くから温泉地として多くの湯治客で賑わいました。明治時代には村出身者によるスキーが始まり、大正期には野沢温泉スキー倶楽部が発足し、鉄道開通も追い風となって温泉とスキーを中心とした村づくりが進みました。昭和28年に「野沢温泉村」に改称、昭和31年に合併して現在の村が誕生。昭和30年代には社会基盤整備が進められ、昭和38年にはスキー場が村営化され、行政と住民一体での観光地開発が加速しました。昭和46年にはオーストリアのサン・アントン村と姉妹提携し、国際交流も盛んに。平成10年には長野五輪の会場となり、世界的な知名度を獲得。上信越自動車道や北陸新幹線の開通により、首都圏などからのアクセスも飛躍的に向上しました。

野沢温泉村の地勢

野沢温泉村は長野県北部に位置し、毛無山（1,650m）から千曲川にかけて広がる起伏に富んだ地形が特徴です。総面積57.96平方キロメートルのうち、半分以上が山林で、上信越高原国立公園にも指定されています。毛無山を源とする河川が村内を流れ、千曲川に注ぎます。気候は日本海側で、年平均気温9.5℃、年間降雨量2,022mm、そして全国有数の豪雪地帯としても知られています。

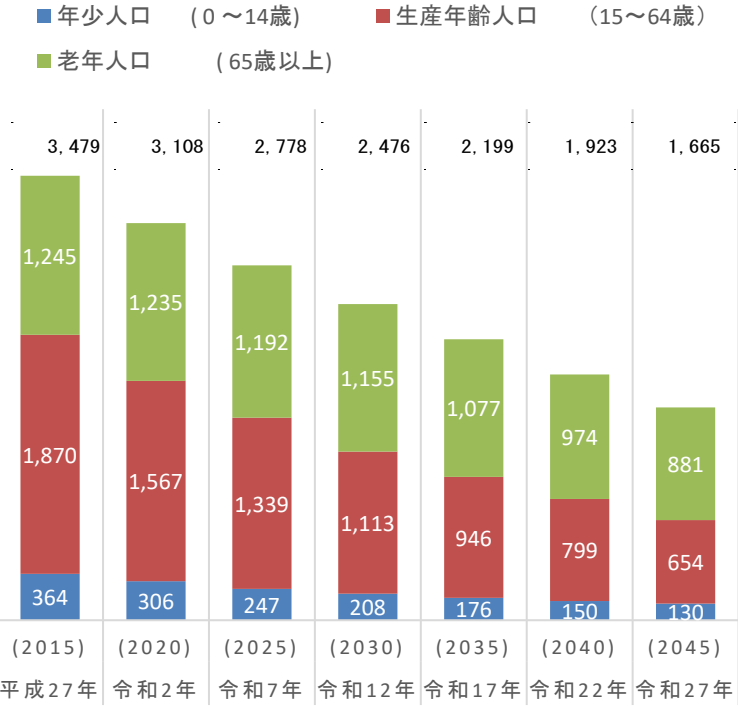


人口推計・将来展望人口(野沢温泉村人口ビジョン)

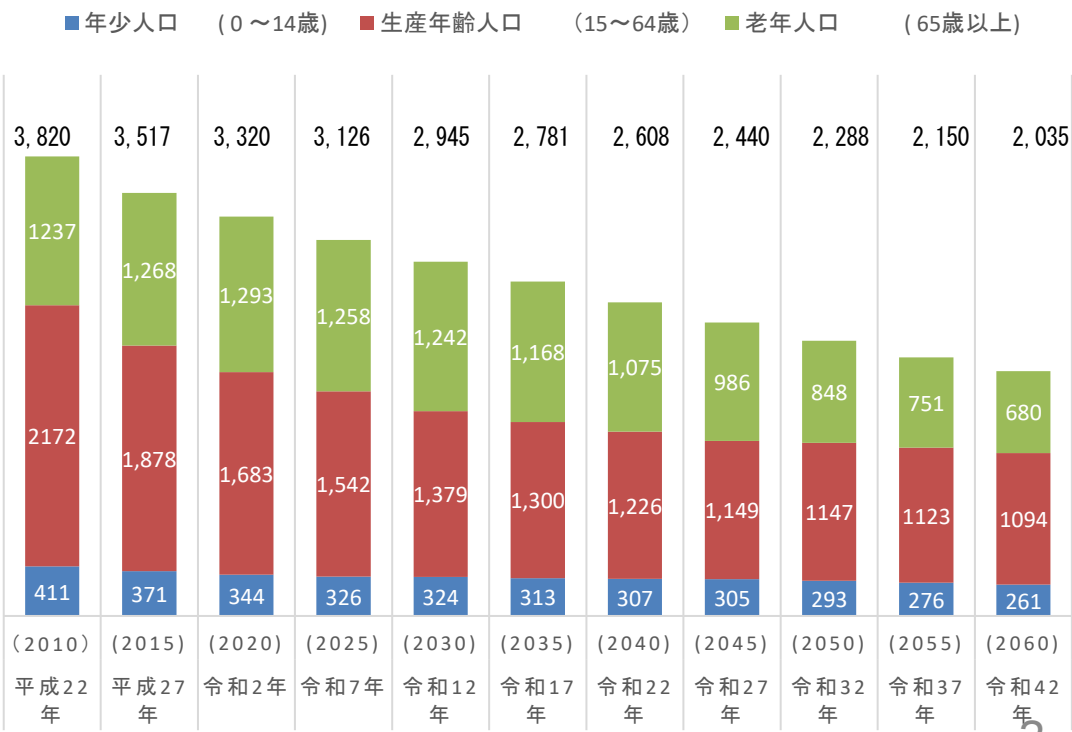
「国立社会保障-人口問題研究所日本の地域別将来推計人口(平成30 (2018) 年推計)」によると、令和22 (2040) 年の人口は1,923人という推計結果が出ています。

「野沢温泉村人口ビジョン」(平成28 (2016) 年2月)では、令和22 (2040) 年の将来展望人口を2,608人と試算しています。今後も人口減少は進む見通しではありますが、出生率の上昇による自然動態の改善、転入者の増加や転出者の抑制による社会動態の改善によって、人口減少を抑制し、持続可能な地域社会の形成を目指すとしています。

人口推計

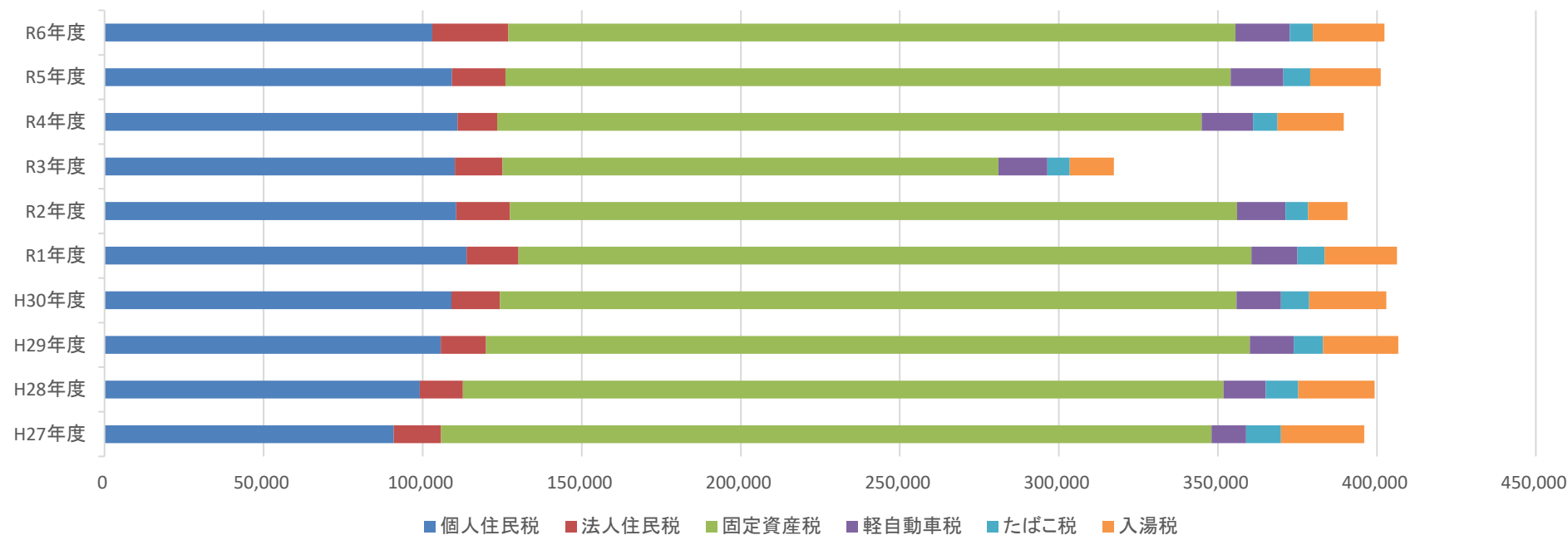


将来展望人口(野沢温泉村人口ビジョン)



村税の徴収実績

観光産業を主幹産業とする野沢温泉村は、事業用不動産（家屋）が同規模自治体と比べると多く存在し、固定資産税の安定的税収が見込めるが、新型コロナがまん延した際には、徴収率が減少した経過があった。そして今後、人口の減少による個人住民税の減少することも予想される。



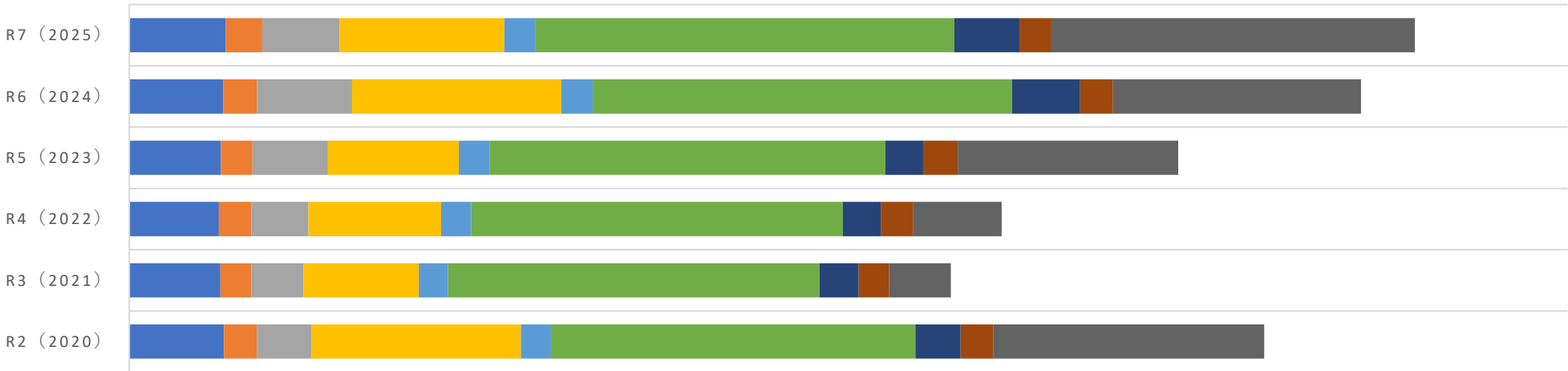
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
個人住民税	90,869	99,092	105,657	109,012	113,829	110,531	110,116	110,946	109,217	103,020
法人住民税	14,875	13,558	14,279	15,208	16,318	16,923	14,994	12,473	16,758	23,895
固定資産税	242,231	239,090	240,106	231,599	230,395	228,608	155,900	221,464	228,063	228,649
軽自動車税	10,884	13,354	13,805	13,984	14,505	15,212	15,392	16,160	16,583	17,023
たばこ税	10,968	10,137	9,222	8,907	8,513	7,110	6,993	7,713	8,377	7,291
入湯税	26,222	24,060	23,661	24,214	22,721	12,390	13,942	20,820	22,175	22,490
年度計	396,049	399,291	406,730	402,924	406,281	390,774	317,337	389,576	401,173	402,368

歳入の推移

野沢温泉村一般会計歳入における村税収入は、毎年10%前後となっている。村税・使用料・財産収入・繰入金の自主財源は30%弱であり、歳入の約70%を地方交付税などの依存財源となっている。

野沢温泉村一般会計（歳入の推移）

■村税 ■使用料 ■財産収入 ■繰入金 ■地方贈与税 ■地方交付税 ■国庫支出金 ■県支出金 ■村債

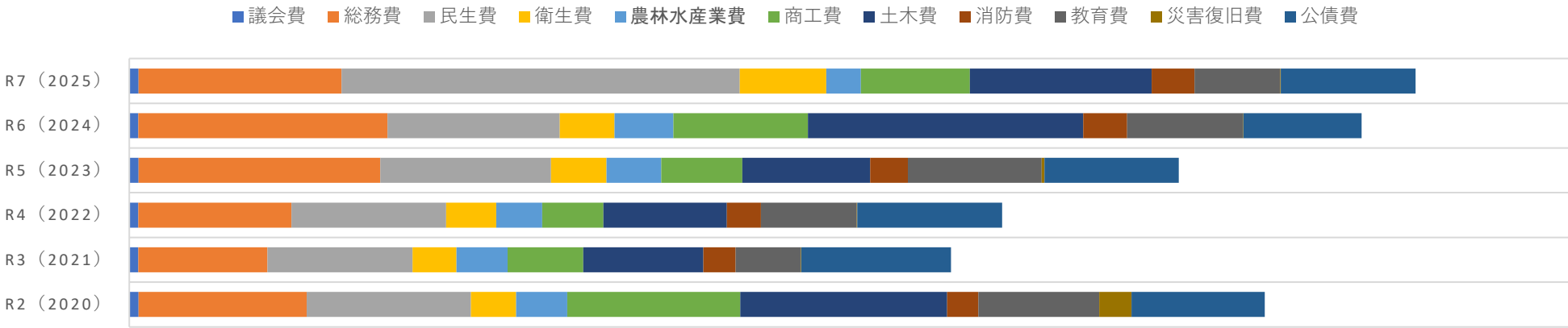


	R2（2020）	R3（2021）	R4（2022）	R5（2023）	R6（2024）	R7（2025）
■村税	395,333	380,282	374,681	382,761	392,143	403,157
■使用料	137,526	129,512	135,727	131,716	141,526	151,786
■財産収入	227,140	217,255	237,711	314,290	396,100	322,746
■繰入金	873,982	481,145	552,996	545,934	872,062	686,917
■地方贈与税	125,905	122,521	125,530	129,810	131,727	128,232
■地方交付税	1,520,000	1,550,000	1,550,000	1,650,000	1,750,000	1,750,000
■国庫支出金	188,768	162,792	159,149	157,159	283,729	270,128
■県支出金	136,246	127,493	135,106	144,430	137,213	133,834
■村債	1,130,100	256,000	369,100	919,900	1,033,500	1,516,200

歳出の推移

野沢温泉村一般会計における支出割合は、民生費や土木費が大きなウェイトを占めている。一方、観光産業を主幹産業とする地域ではあるが、商工費の比率は、毎年１０％前後となっていて、少ない傾向にある。

野沢温泉村一般会計（歳出の推移）

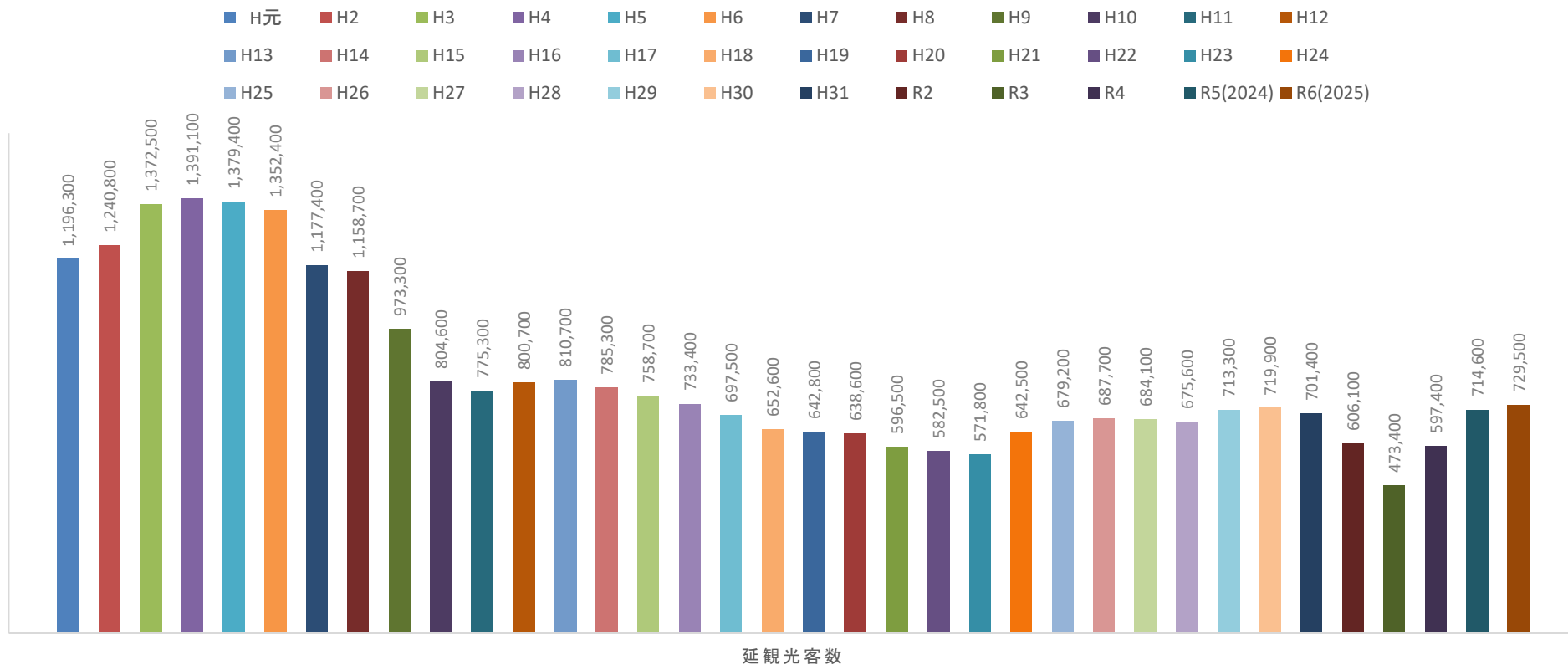


	R2（2020）	R3（2021）	R4（2022）	R5（2023）	R6（2024）	R7（2025）
議会費	38,770	38,408	38,520	38,791	38,095	39,123
総務費	700,931	537,863	638,429	1,007,622	1,038,799	846,438
民生費	684,798	605,448	644,175	711,514	717,682	1,659,409
衛生費	188,333	182,779	209,330	231,750	228,907	360,439
農林水産業費	213,351	213,116	191,396	227,999	244,686	144,578
商工費	721,375	315,336	254,936	337,934	561,310	454,820
土木費	861,648	500,549	514,376	533,758	1,147,697	757,761
消防費	130,752	134,276	142,901	156,835	183,126	178,195
教育費	503,651	271,195	398,344	557,339	481,758	357,120
災害復旧費	134,436	2,280	3,051	12,173	2,148	2,377
公債費	555,955	624,750	603,542	559,285	492,792	561,740

観光客数の推移

野沢温泉村観光客の多くは、スキーシーズンに多く、平成初期には、旅館・ホテル・民宿併せて約400軒の宿泊施設に、100万人を超える客数があった。スキーブームが去り、客数が減少傾向にあった野沢温泉村であったが、近年は、コロナ期以降、約300軒の宿泊施設営業があり、インバウンドの増加により客数が増加傾向にある。

観光客の推移(延べ客数)



野沢温泉村の課題

【財政面】

村財政の約70%は地方交付税等の依存財源。
自主財源は約30%、村税は10%にとどまる。
観光に関する商工費は10%前後と観光地でありながら低い水準である。観光に関する財源確保が課題。

【観光面】

- ・ 夏季シーズンにも誘客できる観光地づくり
- ・ 国際的なリゾートとして多言語対策
- ・ 限られた二次交通対策
- ・ お客様と地域住民が、共に安心して過ごせるまちづくり
- ・ 豪雪と観光に関するエネルギーによる環境負荷を最小とする。

野沢温泉村の将来展望

【観光マスタープランの作成（仮）】

目指すべき将来像を示すとともに、それを実現するために必要な方策（ハード整備含む。）を整理する。

- 例）
- ・ 成長戦略（夏季来訪者拡大）
 - ・ ゲスト体験向上（インフラ整備・ハード整備）
 - ・ 外部不経済対策（観光による負荷の軽減）
 - ・ コミュニティ・レジリエンス（地域持続性確保）